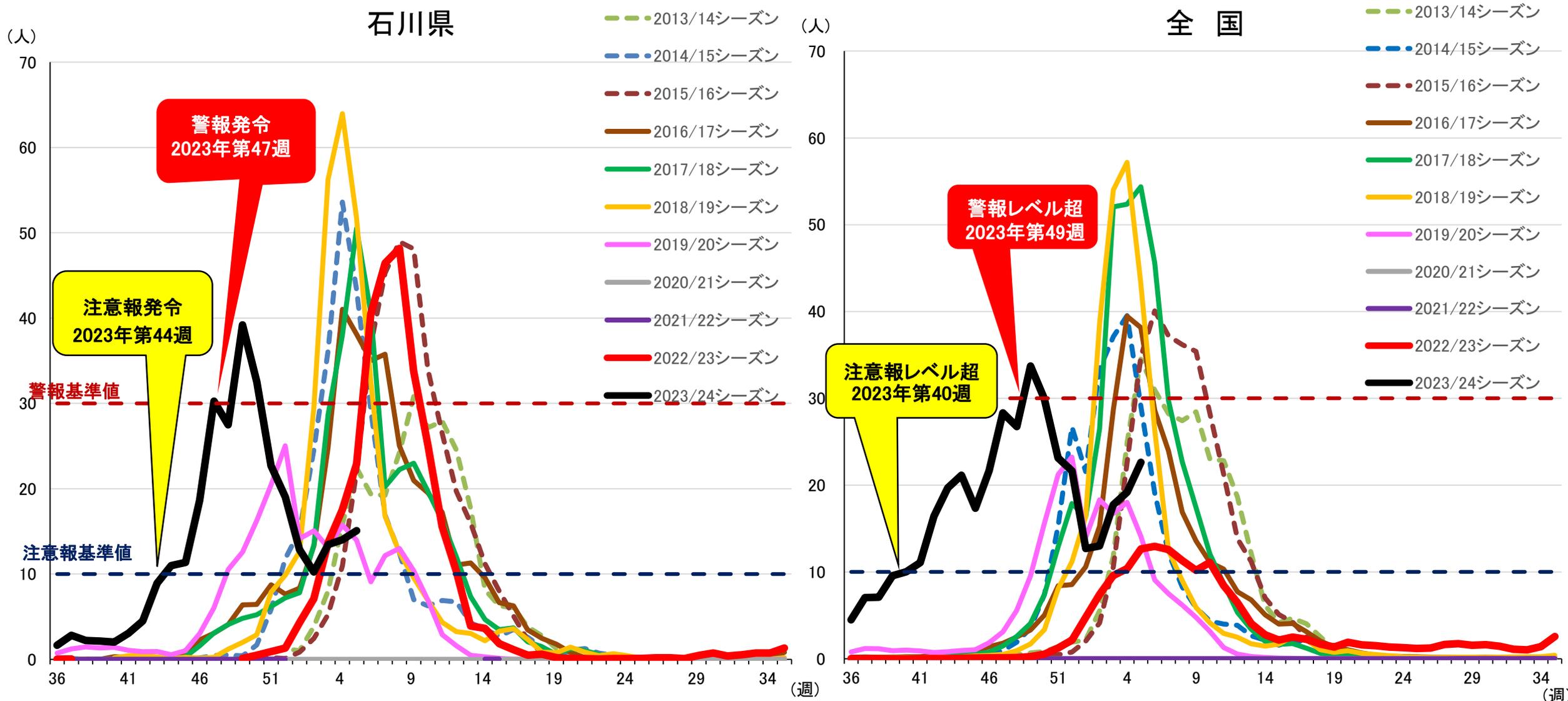


インフルエンザ

1. 定点あたり患者報告数

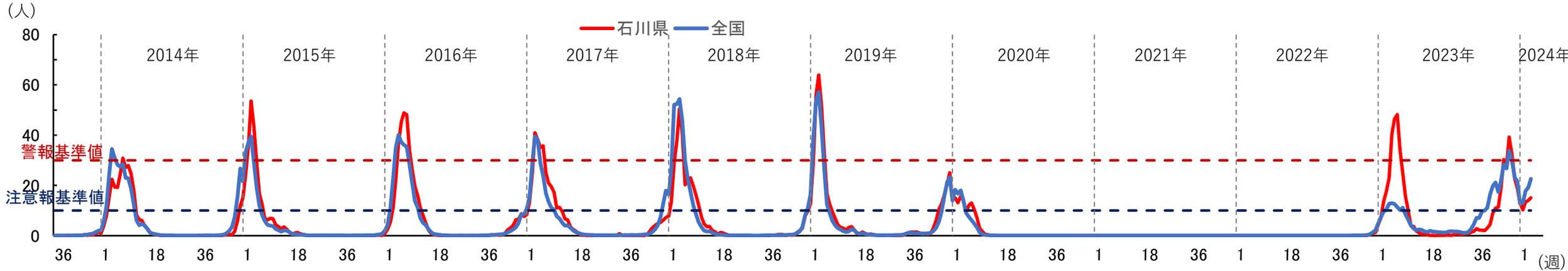
・2023/24シーズンは、石川県、全国共に例年より早期に患者発生を認めた



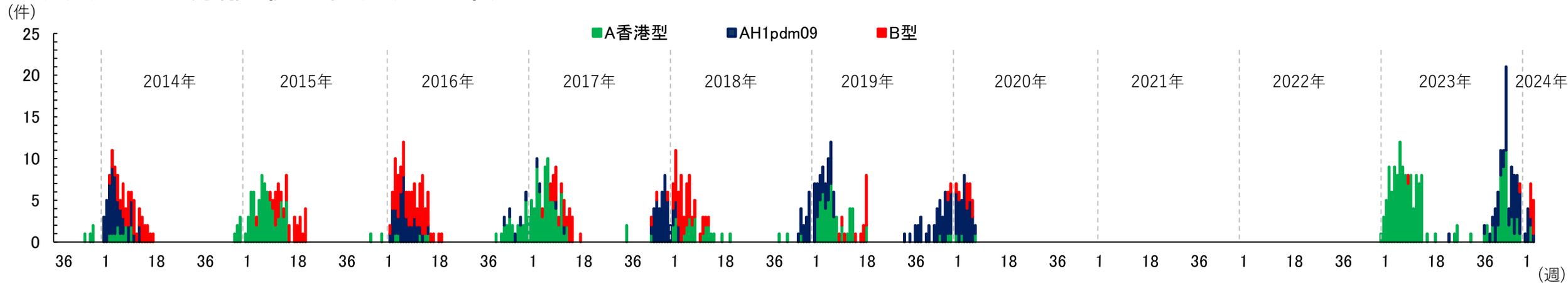
2. 定点あたり患者報告数およびウイルス分離・検出状況

・2022/23シーズンは分離・検出株の大部分がA香港型であったが、2023/24シーズンはA香港型とAH1pdm09が混在している

(1) 定点あたり患者報告数



(2) ウイルス分離・検出状況(石川県)



(参考: 2023/24シーズンのインフルエンザウイルス分離状況)

	A香港型	AH1pdm09	B型	備考
石川県	47株 (41.2%)	58株 (50.9%)	9株 (7.9%)	2024年2月5日現在
全国	2,189株 (63.9%)	1,118株 (33.2%)	97株 (2.8%)	2024年2月2日現在 (国立感染症研究所感染症情報センターHPより)

3. AH1pdm09に関する抗インフルエンザ薬耐性サーベイランス結果

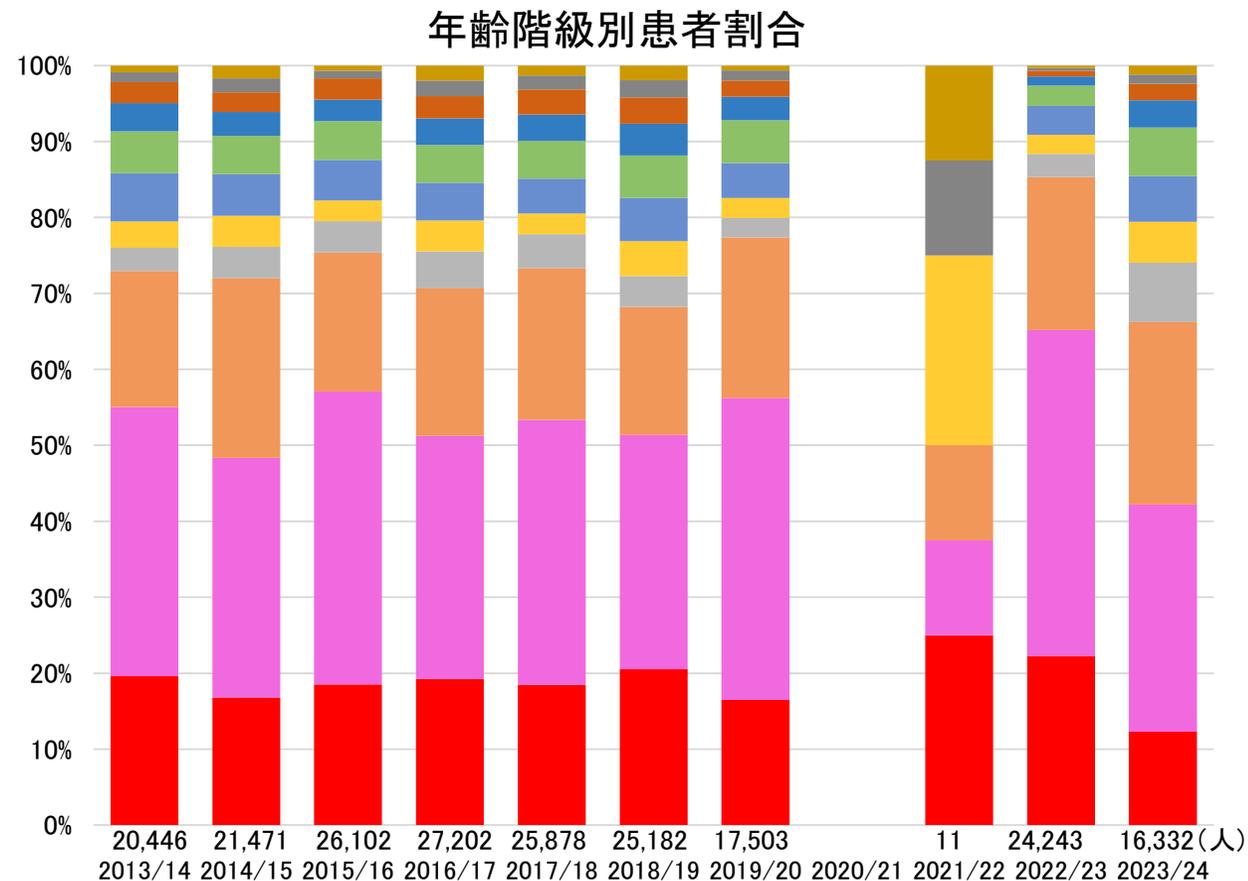
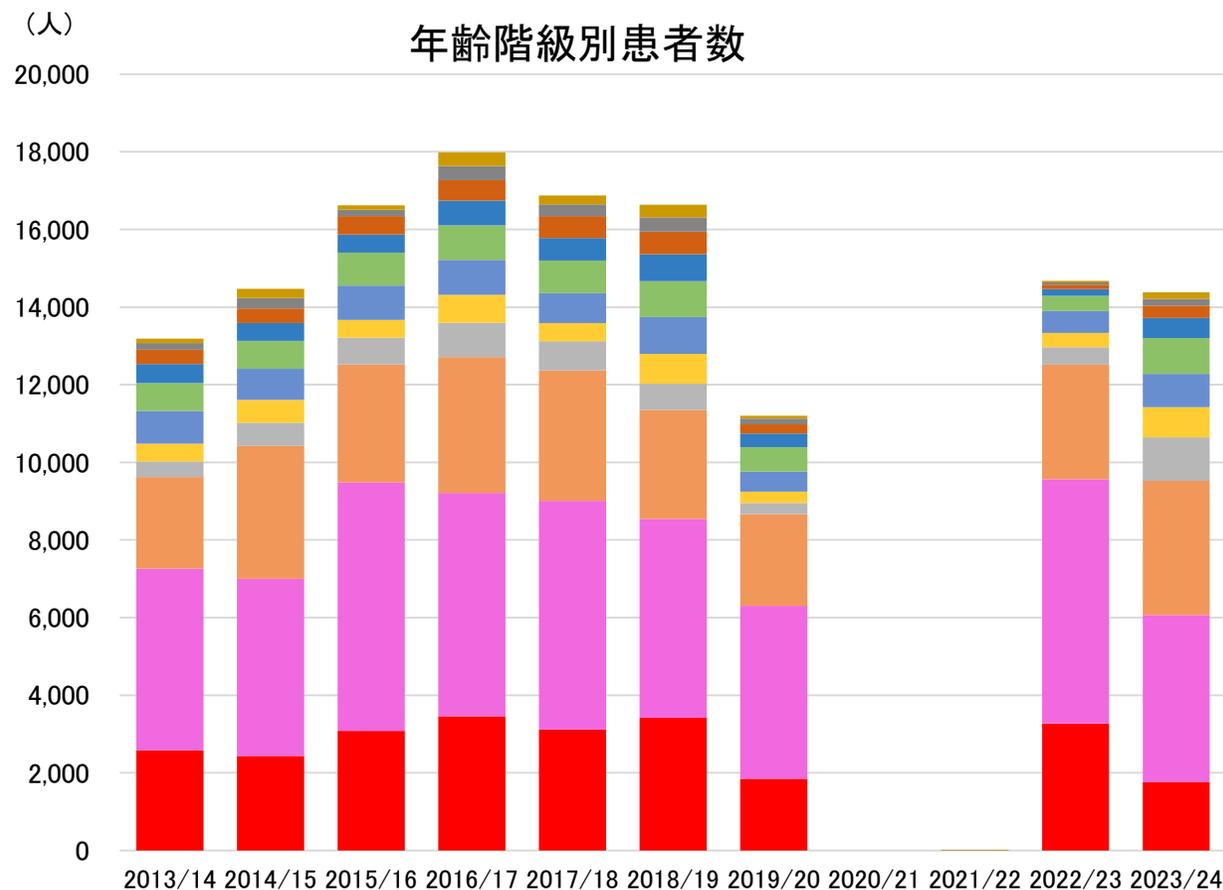
- ・2022/23シーズンは石川県ではAH1pdm09が1件検出されたが、抗インフルエンザ薬耐性株ではなかった
- ・2023/24シーズンは2024年1月17日現在、石川県、全国共に抗インフルエンザ薬耐性株は検出されていない

	抗インフルエンザ薬耐性株検出率 (%) (耐性株数/解析株数)									
	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24
石川県	—	2.8 (1/35)	0 (0/5)	0 (0/35)	0 (0/32)	0 (0/31)	—	—	0 (0/1)	0 (0/52) 2024年1月17日現在
全国※	0 (0/43)	1.9 (50/2,585)	1.1 (3/278)	1.7 (27/1,634)	0.9 (21/2,252)	1.7 (48/2,750)	0 (0/2)	0 (0/1)	1.1 (1/93)	0 (0/189) 2023年12月19日現在

※：全国の地方衛生研究所にて実施した遺伝子解析による耐性マーカーH275Yの検出結果を国立感染症研究所がまとめたもの

4. 年齢階級別患者数・患者割合（石川県）

- ・2022/23シーズンは、15歳以上の患者割合が少なかった
- ・2023/24シーズンは2024年5週現在、年齢階級別割合は例年とほぼ同様の傾向を示しているが、60歳以上で患者数が少ない傾向がみられる



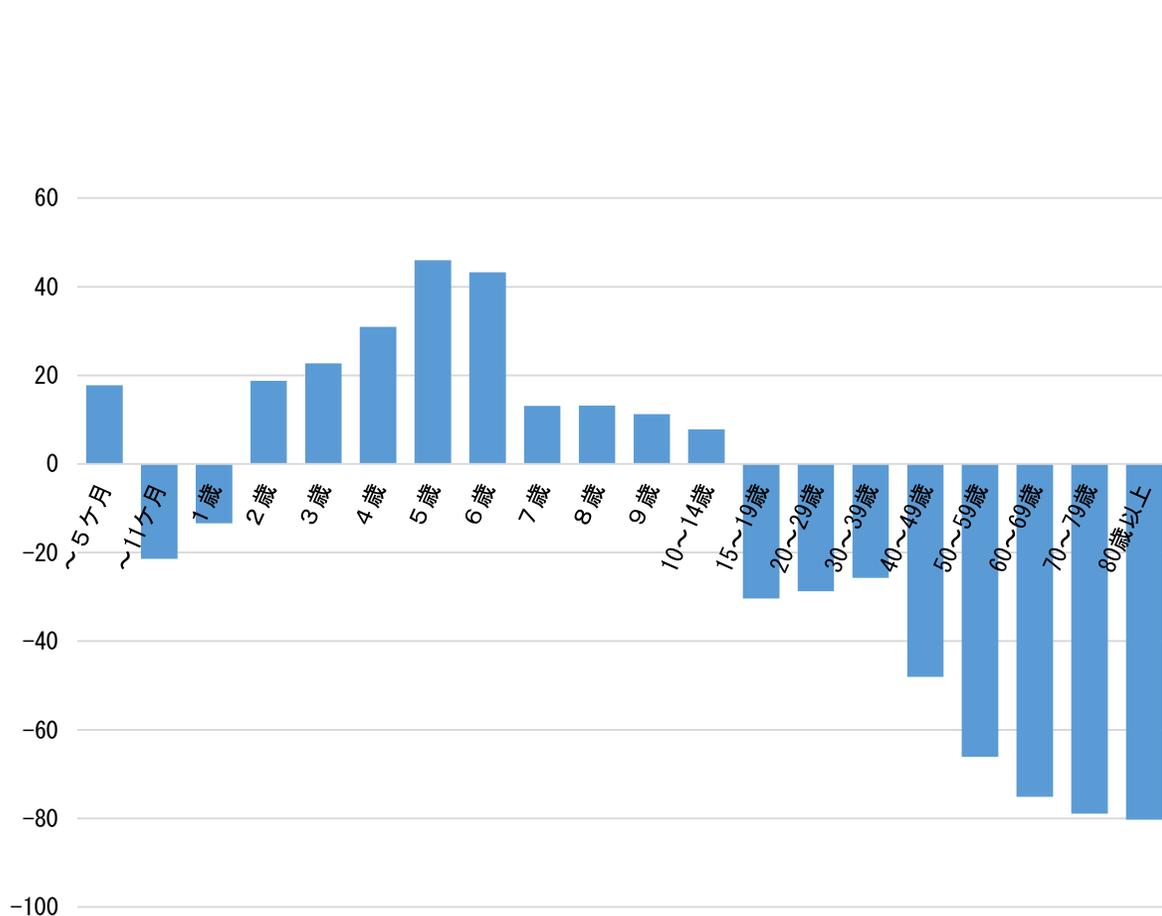
0～4歳 5～9歳 10～14歳 15～19歳 20～29歳 30～39歳
40～49歳 50～59歳 60～69歳 70～79歳 80歳以上

0～4歳 5～9歳 10～14歳 15～19歳 20～29歳 30～39歳
40～49歳 50～59歳 60～69歳 70～79歳 80歳以上

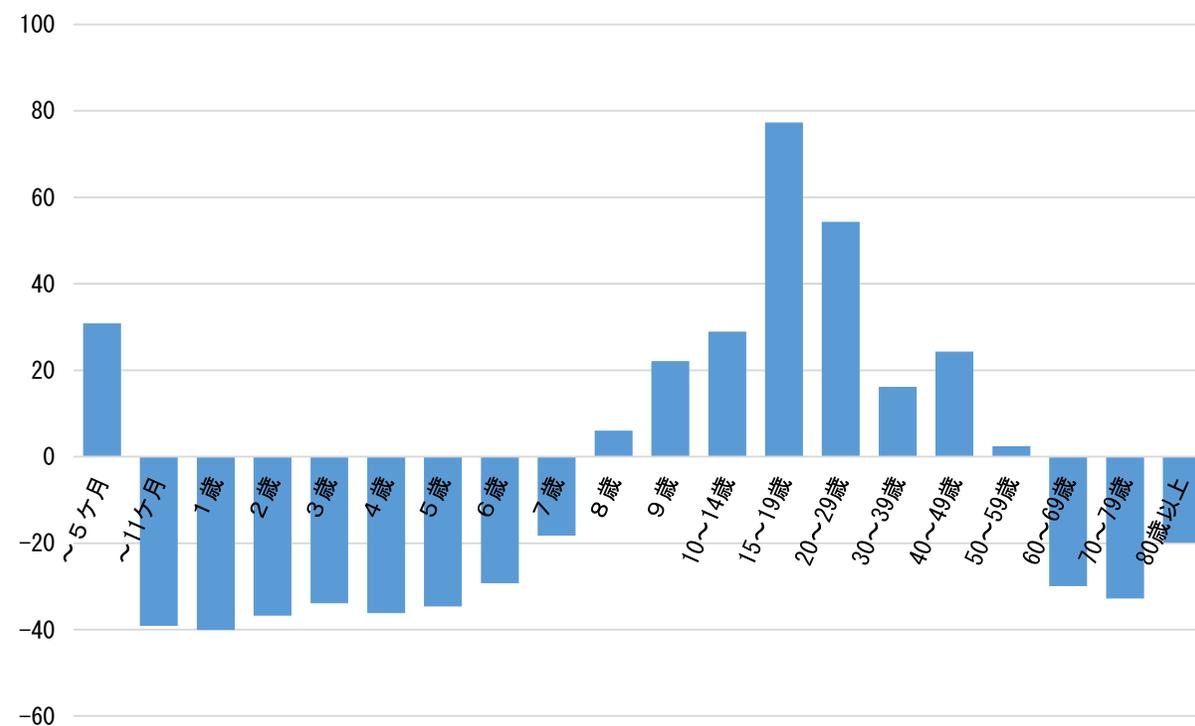
5. COVID-19発生前後の年齢階級別割合（石川県）

- 患者報告数に対する年齢階級別患者数の割合を、COVID-19発生前4シーズン（2015/16～2018/19シーズン）と比較すると
2022/23シーズンは5ヶ月～1歳を除く15歳未満で増加していたが、高齢者では激減している
2023/24シーズンはシーズン途中ではあるが、10代～20代で増加している

2022/23シーズン



2023/2024シーズン(2023年36週～2024年第5週)



6. 年齢階級別患者報告数(石川県)

- 2023/24シーズンは、例年に比べ早い時期に流行を迎え、その後、収束したかに見えたが、2024年第5週現在、15歳未満で患者報告数が増加しており、今後の動向に注意が必要である

